















































「えっ急におちんちん出したので……シコってほしいのかなと」
「排尿だったんですか？ てっきり木に欲情したのかと」
「動かないで下さい！ おちんちん二度と使えなくなっちゃうかもかもしれませんよ！」
「アルヴィンさんって、ペニスだけは無駄に立派ですよね」
「まあそのせいで逆に憐れなんです……」

「とりあえず、出て性欲解消してください」
「四六時中そのうしろ目で見られているの不快なんで……」
「見るくせし」

「変な声出さないで下さい」
「……痛かったりはしないですよよね?」
「別に心配はしてないです」

「アツツいうのもヒーラーの業務なので、職務に忠実であることだけだよー」
「も、もちろん! 性欲処理はヒーラーの業務ですよー!」
「アルヴェインさんはパーティ組んだことないから知らないんですね……」
「可哀想……」



(ザーメンの量……すごい)

(ペニスの脈動で手が押し返されてるみたい)
(まだ出るんだ……)

「あの木も可哀想ですね」


「アルヴィンさんのをぶっかけられるなんて……」

「こんなに沢山かけられたら木でも妊娠するかもしれませぬね」

「さっさとそれ仕舞って下さい」

「おしっこもするんですか？」

「……したら行きましよう。くだらないマジで時間取ったので急ぎますよ」



「大丈夫ですよ、人なんて通りませんよ」
「……それにアルヴィンさんには失うものなんてないじゃないですか」
「今更道端でおちんぽしやぶられてたぐらいで評価はマイナスになりませんよ」
「静かにして下さい！ もうしやぶりますよ」





ゴクツ
「不味い……」
「前に見たときはなんかとろっとして美味しそうに見えたけど」
「味も食感も最悪ですね……」
「まあ……たまにはしてあげてもいいですよ」
「ザーメンはぺってしますが」
「アルヴィンさんも嫌じゃなかったんじゃないですか」



「アルヴィンさん、もつと喜んで下さいよ」
「人生初の女性の裸と素股なのに」
「……女性の裸見たことないですよね？」
「緊張してるんですか？ 体力チカチカですよ」
「ちんぽはカチカチの方がいいんですが……」





「あっ♡」
（ゴリゴリの裏筋が……）
（クリトリスいっぱい擦って）
（気持ちいい）
「はっ♡ はっ♡」
（アルヴェインさん…挿入…しないのかな？）

「んあああっ♡」

(イクっ)

「……冒険者としては全然成長しないくせに♡」

「ちんぽの持久力は高くなるんですね♡」

「いっあっ♡」

「……気持ちいい……ですよね？」



「♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」





「……」
「無事、射精できましたね」
「……満足ですか？」
「だから、アルヴィンさんはモテないんですよ」
「この状況なら入れたって……」
「もう、土下座するまでエッチなことしてあげませんかから」



「ん♥ アルヴィンさんは普段の服を着た

見慣れた私とセックスがしたかったんですね

「何も土下座しなくてもいいのに……あんっ♥」

「? 私は土下座しろなんて言ってますが……はっ♥」

「下は今度……予備があるときなら……♥」

「アルヴィンさんは幸せ者ですね」

「こんなにカワイイ私で童貞卒業できて……ああ♥」

「アルヴィンさんのちんぽ……」
「ガチガチだから、ん♡」
「おまんこの中ぐりぐりされて♡」
「おっ♡ おん♡」
「動かし方はぎこちないけど……」
「ちんぽは星5つですね♡」



「おっす」




クッ
クッ
!

クッ
!!



「……大丈夫ですよ、アルヴィンさん」
「おまんこ初めてですもんね、それを差し引いても別に早くはないですよ」
「それに今日は一晩中セックスするんですから………♡」
「射精の一回や二回は誤差ですよ」
「私はヒーラーですからね」
「おちんぽの回復もお手の物ですよ」



「アルヴィンさんのおちんぽ全然萎えませんね」
「ずっと固い……♡」
「私はかわいいので当然なのですが……」
「あっ♡」
「アルヴィンさんは動かなくていいです」
「私がやりますから」
「勝手に動かれると迷惑です♡」

「あっあああ♥ ああっ♥」
「はっ♥ はっ♥ はっ♥ はっ♥」
「アルヴィンさん気持ちいいですか？」
「さっきより全然持久力ある♥」



「んんんんんんんん」



「ふー♥ふー♥」
「……イクの同じタイミングでしたね」
「……大丈夫ですよね？」
「このまま休まないで続けても」



「アルヴィンさん」
「今夜も……その……」
「してあげても……」
「い……いいですからね」

